

本の紹介

ウォルター・アルバレス著・山田美明訳「ありえない138億年史 宇宙誕生と私たちを結ぶビッグヒストリー」光文社、385p、2018年2月20日発行
1800円（税別）、ISBN978-4-334-96215-9

著者の名前を見てピンとくる方もおられるかもしれません。この本の著者ウォルター・アルバレスは、白亜紀一古第三紀境界層にイリジウムが異常濃集していることを見いだし、生物の大量絶滅の原因を隕石衝突に求めた論文の著者の一人である。

本書第一章の記述に基づくと、彼は徐々に絶滅境界の地質学的な研究から距離をとり、「さまざまな歴史を組み合わせ、過去全体を総合的に見わたすような分野横断的な学問」の創設を夢見るようになる。そして「あらゆる専門科目がどう結びついているのかを知りたがる学生」とともに、「ビッグバンから現在までのどの時空間にもズーム可能な歴史年表」を作りはじめる。また関連した講義も行う。本書はその年表づくり・講義からエッセンスをまとめたものであろう。

目次は以下の通りである。

序 宇宙、地球、生命、人間からなるビッグヒストリー
第1章 ビッグヒストリーから見た地球と人間世界
第2章 ビッグバンから地球誕生まで
第3章 地球からの贈りもの
第4章 大陸と海洋を持つ惑星
第5章 二つの山脈の物語
第6章 古代の川の記憶
第7章 人間の体に刻まれた生命の歴史
第8章 大いなる旅路
第9章 人間という種の特徴
エピローグ これまでの歴史がすべて起こる可能性
は？

本書の副題、序および第1章の章見出しに含まれる「ビッグヒストリー」は、宇宙誕生から現在までを一括して扱う歴史学の呼称らしい。

このように本書で扱う時間軸は138億年と長大であ

るが、一人の著者が語りかける以上、その専門性はどうしても反映される。おのずと、本書は過去の地質学的な事象や地形的な特徴が、人間の歴史、および現在の世界のありようにどのような影響を及ぼしているか、に力点がおかれる。これに関し著者は「人間の歴史の中で起きたことはほぼすべて、遠い過去の出来事の影響を強く受けている」と表現する。ここでいう「遠い過去の出来事」の代表は地質学的な出来事にほかならない。

また扱われる視野も広く全地球的なものである。ただ第5章と第6章は米国在住の読者を意識したもので、北米大陸の地形・地史と現在とのつながりが詳説されている。とくに第6章は、ニューヨークからサンフランシスコまでの大陸横断鉄道からみえる車窓の景色を語るユニークな構成となっており、「ジオ鉄」ファンは面白く読めるだろう。

もう一つ本書で強調されるのは、地球史上で起こった偶然の出来事である。「予測不能」で「まれ」にしか起こらない事件に歴史は翻弄されてきた。著者が長年研究してきた白亜紀末の大量絶滅イベントと絡め「私たち人間が存在できるのも、恐竜が絶滅したからにはかならない」と強調する。中生代を通してマイナーな存在に留まり続けていた哺乳類が、多様化・大型化していくのは、恐竜など大型の爬虫類が絶滅したのちである。そして、隕石衝突に留まらず、なぜ物理定数がわれわれの知る値になったのかも含め、多くの偶然の積み重なりにより、現在が現在のありようになったと著者はいう。

私的なはなしで恐縮だが、本書の存在を知ったのは、釧路で開催された日本地学教育学会全国大会の帰路、車で南下の途中、たまたま立ち寄った青森市のとある古書店である。入り口付近に面陳列されており、目に止まった。これはだれにも影響を及ぼさない偶然の出来事に過ぎないが、私個人にはとても大きいパブニングであった。本書と出会えた幸運を素直に喜びたい。

（茨城大学 伊藤 孝）

2025.10.06 受付

2025.11.21 学会ニュースレーター公開

2025.11.21 学会ホームページ公開